

富田林市

Tondabayashi City

総人口	在留外国人数	比率
103,678人	2,620人	2.53%

大阪府東南部の富田林市は、自然と歴史が調和したまちです。石川が流れる北東部は古くから開け、特に寺内町には貴重な歴史的町並みが残ります。

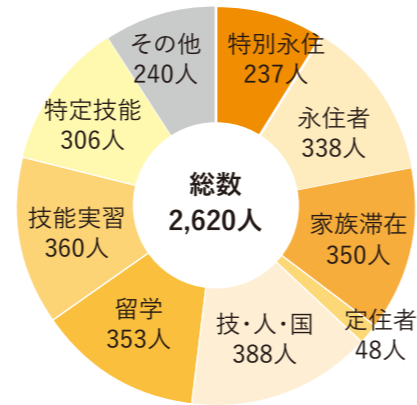
一方、南部は金剛・葛城連峰を背景とした緑豊かな田園風景が広がり、西部は環境水準の高いニュータウンとして計画的に開発されました。

1950年の市制施行以来、都市化と共に発展を続けています。



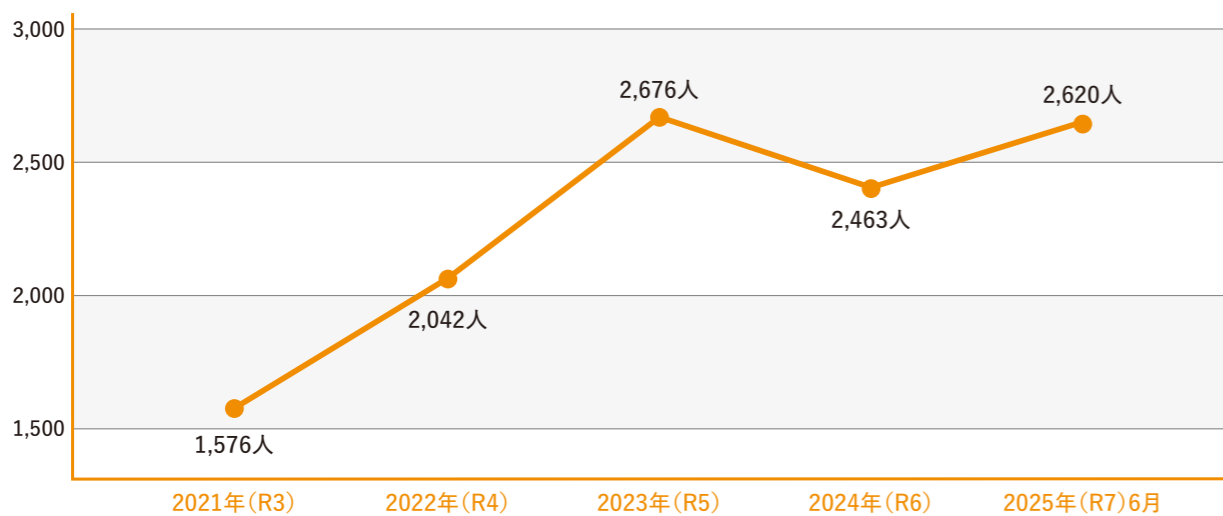
富田林市の特徴

企業で働きながら生活する「技能実習」などの就労層が見られる他方で、「特別永住」「永住者」「家族滞在」など、長く地域に暮らす定住層も多く存在します。働き手としてだけでなく、生活者としての定住化が進みつつある傾向にあります。



法務省在留外国人統計 2025年6月より

外国人推移データ



法務省在留外国人統計 2025年6月より

01 福祉

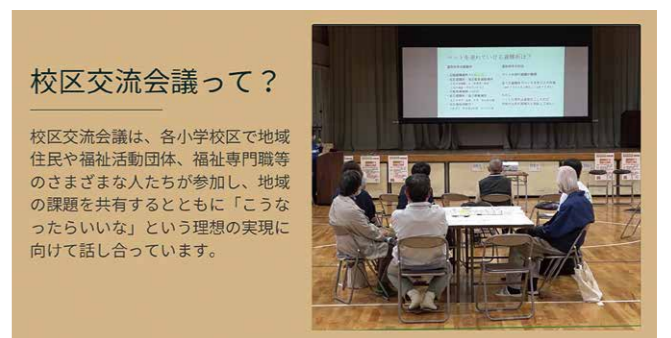
重層的支援体制整備事業

福祉部 増進型地域福祉課、社会福祉法人 富田林市社会福祉協議会

福祉部 増進型地域福祉課

校区交流会議から広がる住民主体の地域福祉

「増進型地域福祉」の推進を重点施策として、地域が目指す理想の姿を住民とともに考える取組みを進めています。その中核となるのが、市内16小学校区すべてで開催される「校区交流会議」です。ここでは地域住民が主体となり、市職員が校区担当職員として加わりながら、属性を限定せず誰もが参加できる形で、地域課題や将来像について継続的に話し合いを行っています。現在は外国人支援を明確に切り分けてはいませんが、外国人住民も地域の一員として支援対象に含まれており、今後はこの会議を通じて多様な住民が共に支え合う地域づくりが期待されています。



校区交流会議って？

校区交流会議は、各小学校区で地域住民や福祉活動団体、福祉専門職等のさまざまな人たちが参加し、地域の課題を共有するとともに「こうなったらいいな」という理想の実現に向けて話し合っています。

富田林市増進型地域福祉



富田林市重層的支援体制整備事業実施要綱



社会福祉法人 富田林市社会福祉協議会

関係機関の連携による外国人住民支援

外国人住民が増えるなか、手続きなどに不安を抱える方も増えてきています。複数の課題が見えてくる部分もあり、支援を単独で行うのではなく、国際交流協会や各関係機関と連携し取り組んでいます。例えば、公的制度の利用が難しい難民世帯への支援では、人権協議会が「食糧支援」、国際交流協会が「言語支援」、社協が「手続きなどに関する支援」など役割分担を行い対応しました。また他にも課題が見えた際には、関係機関と連携し、情報共有などを行う中で支援が滞ることなく迅速に次の対応へとつながる体制が整っています。

社会福祉法人 富田林市社会福祉協議会



02 多文化

多文化共生社会の推進

市民人権部 人権・市民協働課、特定非営利活動法人 とんだばやし国際交流協会

市民人権部 人権・市民協働課

外国人市民会議を通じた共生の地域づくり

外国人住民を地域で共に暮らす住民として位置づけ、多文化共生を推進しています。

外国人市民相談窓口を、TONPAL(多文化共生・人権プラザ)に設置し、運営を特定非営利活動法人 とんだばやし国際交流協会に委託することで、近年増加する出産・子育て・教育に関する相談に

応じています。また、年4回開催する「外国人市民会議」で出された生活上の課題や意見を踏まえ、地域ごとの実情に応じたプログラムづくりに取り組んでいます。「外国人住民のための施策」にとどまらず、日本人と外国人住民が共に地域づくりに関わることを重視しています。

外国人市民会議



富田林市多文化共生推進指針
(改定版)



特定非営利活動法人 とんだばやし国際交流協会

福祉と国際交流の組織的連携

「TONPAL(多文化共生・人権プラザ)」を拠点に活動しており、市民人権部 人権・市民協働課・社協・人権協議会と連携しています。社会福祉協議会の役員が国際交流協会の理事も務めるなど、組織的なつながりを持っています。なかでも、「にほんご読み書き教室」と、教育委員会と協力して開催する「サマースクール」には重点を置いています。「サマースクール」は外国ルーツの子どもや保護者、ボランティア、教員などが参加し、昼食には多国籍料理を共に囲みます。また、「にほんご読み書き教室」に来ている外国人住民が、配食ボランティアや子ども食堂の運営に携わるなど、地域の中で活躍する循環が生まれています。

特定非営利活動法人
とんだばやし国際交流協会



03 まちづくり

市民自治によるまちづくりの視点から

外国人住民の声

外国人住民の声

青木 信介さん・青木 蘇芳さん(日本で暮らして7年)

日本での永住を希望しており、市役所などで必要となるさまざまな手続きも通訳なしで自分で行っています。また、社会福祉協議会を通じて、高齢者向けの配食ボランティアに参加しており、支援を受けるだけでなく、地域を支える側として活動しています。

李さん(中国出身 日本で暮らして3年)

来日後に日本人と結婚し、現在は日本語の勉強に専念しています。将来的には、家庭と両立できるような残業が少ない仕事に就き、日本社会で働きたいと考えています。

コガ チエミさん(ペルー出身 日本で暮らして2年以上)

日本語はまだ学習中ですが、親戚のサポートがあり、ごみ出しなどの生活ルールに困ることはありません。母国の文化や料理を紹介したいという思いが強く、国際交流協会を通じて地域の人と関わりたいという意欲を持っています。



ヒアリングの様子



コガチエミさんが料理を紹介する様子